



カケハシ・プロジェクト（カナダ）カナダ大学生派遣の記録

1. プログラム概要

【目的】日本の大学生が、カナダ・オンタリオ州を訪問し、関係各所の視察を通じてカナダの政治、歴史、文化などを学びました。また、カナダの大学生や過去のカケハシ・プログラム招へい参加者との交流を通じて現地生活や習慣に触れるとともに、日本及び石川県の魅力を伝えることで異文化理解を深めることを目的に実施しました。

【参加者】日本の大学生（小松大学） 計6名

【訪問地】オンタリオ州トロント、ウォータールー、オタワ

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

2月21日（水曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、渡航上の注意、新型コロナウイルス感染症対策等

■ 派遣プログラム:

3月3日（日曜日） 羽田空港より出国、トロント・ピアソン国際空港よりカナダ入国

3月4日（月曜日） 【視察・表敬訪問】国際交流基金トロント日本文化センター

【視察】オンタリオ州議会（クイーンズパーク）

【表敬訪問】オンタリオ州副総監 エリザベス・デュモン 氏

【視察】トロント・新市庁舎、旧市庁舎

【視察】ネイサン・フィリップス・スクエア

【視察】イートン・センター（ショッピングセンター）

3月5日（火曜日） 【学校交流】ウォータールー大学

3月6日（水曜日） 【視察】ナイアガラの滝、ナイアガラ・オン・ザ・レイク

【視察・表敬訪問】日系文化会館（JCCC）

【視察】アガカーン博物館

【交流】カケハシ・プロジェクト招へいプログラムのトロント在住の過去参加者（同窓生）

3月7日（木曜日） トロントからオタワへ移動

【表敬訪問】国際関係省

【表敬訪問】在カナダ日本国大使館

【視察】国立戦争記念碑

【視察】リドー運河

【視察】ノートルダム大聖堂バシリカ

- 3月8日（金曜日）
- 【視察】カナダ国立美術館
 - 【視察】最高裁判所
 - 【視察】カナダ歴史博物館
 - 【視察】オタワアートギャラリー
 - 【交流】カケハシ・プロジェクト招へいプログラムのオタワ在住の過去参加者（同窓生）
- 3月9日（土曜日）
- 【視察】プルー・メープル・ファーム
 - 【視察】カナダ総督府・首相公邸 リドー・ホール
 - 【視察】バイワードマーケット
 - 【視察】カナダ国会議事堂 西棟
 - 【視察】カナダ銀行博物館
 - 【ワークショップ】プログラムの学びや気づきのまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成
- 3月10日（日曜日） モントリオール国際空港より出国
- 3月11日（月曜日） 成田国際空港に入国

2. 記録写真

派遣プログラム



3月4日【視察・表敬訪問】国際交流基金トロント日本文化センター



3月4日【視察】オンタリオ州議会（クイーンズパーク）



3月5日【学校交流】ウォータールー大学



3月6日【視察】日系文化会館（JCCC）



3月6日【交流】トロント在住のカケハシ・プロジェクトの同窓生



3月7日【表敬訪問】国際関係省



3月7日【表敬訪問】在カナダ日本大使館



3月8日【視察】オタワアートギャラリー



3月8日【交流】オタワ在住のカケハシ・プロジェクトの同窓生



3月9日【視察】プルー・メープル・ファーム



3月9日【ワークショップ】



3月10日帰国日

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

在カナダ日本国大使館への訪問等、個人的な旅行や留学目的で渡航したとしても絶対に足を踏み入れることは無いであろう政府機関や、お目にかかる機会のない要人との交流はカケハシ・プログラムに参加したからこそ出来た稀有な経験でした。プログラム中にお会いした方々から直接お話を拝聴する機会はそうそうあるものではなく、大学生という、ある程度社会が見えてきて、今後の人生を大きく左右するであろう岐路に立たされている今だからこそ、得られるものが大きかったと思います。また、現代において、良い意味でも悪い意味でも話題となる多様性への理解や意識がかなり進んでいるカナダという地で、現状を視察し、日本との違いを肌で感じる事が出来たこと、なぜカナダでは多様性の理解がここまで進んでいるのかを深く考えることが出来たことは自分にとって大きな収穫だったと感じました。特に、先住民族については、日本におけるアイヌと重なる部分もあり、大変興味深かったです。

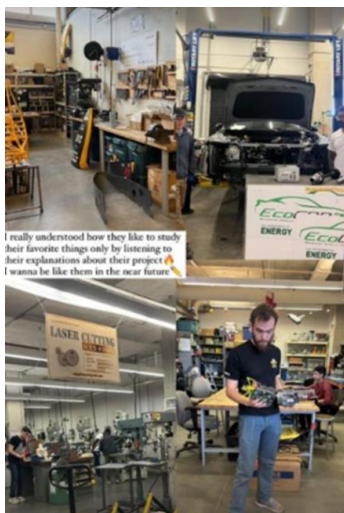
◆ 大学生

在カナダ日本国大使館にて、今後の自分にとって有益な話を聞くことができ、とても良い経験でした。自分が挑戦したいことを、他人の評価を気にして制限するべきではないという話を聞き、周囲の目を気にしがちな私にとっては大変学びの多い内容でした。

◆ 大学生

ウォータールー大学での学校交流や、オタワ在住のカケハシ・プロジェクトの同窓生との交流が一番良かったと思います。文化の違いなどを学ぶにあたり、同世代であることが互いをもっと知りたいという気持ちにさせ、より深い相互理解と友情を育むことにつながりました。

4. 参加者の対外発信（抜粋）



2024 年 3 月 5 日 (Instagram)

現地の学生の説明を聞いて、彼らがいかに自分の好きなことについて探求しているかを目の当たりにしました。私も近い将来、彼らのようになりたいと思います。



2024 年 3 月 5 日（小松大学 国際交流センター
の Instagram）

本日はウォータールー大学を訪問しました。ウォータールー大学の学生さんによるキャンパスツアーや、講義の受講体験、パネルディスカッ

	ションや日本文化紹介のプレゼンテーションを行いました。小松大生たちは、この日のために約1か月間パネルディスカッションとプレゼンテーションの準備をしてきましたが、無事大成功に終えることができました。また、沢山の学生さんたちとも深い絆を築くことができたと思います。ぜひ帰国後もこの繋がりを大切にしましょう。
--	--

5. 参加者による訪加成果とアクション・プランのまとめ（抜粋）

【カナダ訪問中の学び】

- 日本を理解することの大切さ
日本人が気付いていないような日本の魅力を海外の方々が知っていることもあるのだと知りました。日本を知ってもらうには、まず日本人自身が自国について詳しく知ることが大切だと思いました。日系人の歴史についても学ぶ機会が必要だと思います。
海外には日本に関心のある人々へ向けた情報発信を行う機関がすでに存在しており、個人レベルで SNS 等を通じて海外へ向けて発信を行うよりも、日本人や日本在住の外国人へ向けて日本の文化や魅力、歴史等を発信し、日本国内で日本と海外をつないでくれる人材を育成することが日本への理解に結びつくと考えました。
- 日本とカナダにおける多様性について
カナダは公用語が英語とフランス語の二つがあり、バイリンガルも多いです。英語話者が圧倒的に多いですが、フランス語は保護すべき言語であるという共通認識があります。
- 学生の勉強に対する姿勢
カナダでは勉強に対するモチベーションが高いと感じました。学ぶ自由と学ばない自由があり、学生は自ら学ぶ意思を持って大学に通い、卒業するための勉強ではなく、興味を持って勉学に励んでいました。
- カナダと日本の外交について
日本はアジアの国で唯一の G7 参加国です。日本とカナダは、パートナーとして良い関係を継続することが大切です。
- 日本という国の魅力について
交流を通じて日本の魅力を再認識しました。世界の中で日本でしか使われていない「日本語」を学んでいる人が多く嬉しかったです。多様な日本の文化、伝統の魅力を改めて認識しました。

【アクション・プラン】

参加者全員で以下のアクション・プランを実施します。

- 目的：海外には日本文化を発信する機関があり、日本人自身が日本のことをより深く理解する必要があること、日本でも日常における「多様性」などについて深く考える機会が必要なことを身近な大学生に伝え、考える機会を提供するため。

- 内容 : 4 月 6 日の公立小松大学きずな合宿（新一年生を対象にしたイベント）で以下の議題についてプレゼンテーションを実施します。
 - 「多様性とは何か」を軸としたカナダと日本における多様性のまとめ
 - 多様性について考える契機の提供
 - 日本人自身が「日本」について学び知る必要性の共有
 - 伝統を守りながら新しいものを受け入れる意味の共有

実施団体名 : 一般財団法人日本国際協力センター（JICE）、カナダアジア太平洋財団（APFC）